て、幼児の製作品は勿論、一切のものに對することである。これつまらないのね。へたくそね。なんていふ辛辣な言葉が一度でも先生の口から出るのを聞いたら、こりや痛快だと、子どもの心はいらぬ味を覺へて仕舞ふであらう。

さて、ところで、今度は自分の製作品に對する態度であるが、これは、大人の場合とちと違つて、そう〳〵謙遜し、つまらないもので御座いましてとか、お恥しい次第で御座りましてとか、そんな態度をとつては却つて子どもらしくないであらう。あんまり自慢高慢も無邪氣過ぎると思ふが、七分の自慢、三分のきまりわるさといつたところが子どもらしい自然であらう。子どもの性質によることで、一概にはいへないが、自ら輕んじさせる風は決していゝといへない。殊に實際の取扱ひに於て、自分の製作品だからといつて、無暗に捨てたり、破いたり、こわしたりするやうなことはよろしくない。それは作法的でないといふよりも、心のすさみを思はせること、又心をすさませてゆくことで、堅く注意したい。

この問題は、またゆつくり研究して見たいとも思ひますが、皆さんも是非充分によく考へて見て下さい。形でなく、ほんとうに心持ちの問題として、幼稚園訓練問題中、恐らく最も意義深く味はひ豐かな問題といつていゝでせう。

誘導保育

第四週

敷物つゞき、枠ぬひ、かなり大きい布地に、みんなで六周りの枠縫をせねばならないので、今週一杯は充分かゝる。男児も女児も殆んど殘らずに參與した。

果物模樣ぬひ込み、果物の輪廓をそれ〴〵の色の布地に描かせて切り拔き、之をズックに布ごと縫込むのである。前週に種類、大きさの大體の概念をつけて置いたので無駄なく出來る。模樣の布は、大人がズックに假縫をしてやつて

おく。布と縫込む仕事ではあるし、ズックも相當の大きさなので子供の手におへない場合が澤山あるので、布を持つてやるとか、絲のもつれを直してやるとか、細々の注意を拂はねばならない。縫込みには毛絲を用ゐた。布とども色のを用ゐた。配合のいゝ異つた色を用ゐる方がずつと引き立つのであらうけれど、澤山の果物の種類があるし、それの全體のうつりのいゝ絲を選ぶのは仲々六ヶ敷いので、却つて無難な方がいゝと思つて。

額　之も前週下繪を描かせてあるので、その多くの中から額にふさはしい、殊にこの人形のお家の額にふさはしい繪を選ぶ。この時は、繪の具で彩色した、エンジの洋服を着たお孃さんの繪が選ばれた。

第五週

敷物つゞき　前週の樣にしてつゞけ、この週で出來上らせる。

衝立　繪は前週書いた下圖の中から、衝立の繪としてふさはしい繪柄を選ぶ、この時は秋でもあつたしするので、葉げい頭と柿の繪をこれにあてた。この衝立は人形の家としては、お座敷と臺所の間をしきる爲に使はふと思つたので、横二尺五寸縦一尺八寸位衝立を計畫した。紙は片側はクリーム色のラシャ紙、之に葉げい頭を、片側はネズミ色のラシャ紙を用ゐて之に柿の繪を描かしめた。兩側ともクレヨンで濃く塗らせ油繪の感じを出させた。

枠は保育實習科の生徒と受持保姆との協同製作。鋸ミシンを思ふ樣に使ひ、出來上りを塗つて大人の滿足のいく樣なものになつてしまつた。

野菜、臺所にと思つて大根、人蔘、葱、きやべつ、馬鈴薯、みつば、松茸、茄子、栗等の野菜を作る。大根、人蔘、みつば等は模造紙で。葱、きやべつ、松茸等はクレープペーパを用ゐて。馬鈴薯、茄子、栗等は粘土をもつて。作り方は、どういふ風にして等いふ形式を全然超越して、どうにでもして、人蔘に見える樣、大根に見える樣にと言つた調子で作り上げた。

第六週

衝立つゞき　今週で仕上げる。

魚介類　之もやはり臺所用にと思つて拵へた。子供達の

知つてゐるお魚や貝類の名を黒板に書いて置いて。お魚は水族館の時の樣に中に綿等を入れて兩面のを作り、蝦は折紙で折るのを畫用紙で折つて彩色した。貝等は粘土を用ゐた。

鳩時計　ベニヤ板に可愛いらしい鳩時計の輪廓を子供に描いて貰つて大人が鋸ミシンで切つてやつた。松の實をフンドウにしたのは面白い思付きであつた。全體を茶色に彩色して、白の繪具で時間や、時計の針を書く。こんな仕事は皆子供にして貰ふ。

植木鉢カバー、客間の出窓にベコニヤ等の鉢を置くにしても、鉢をむき出しではこいふのでカバーが計畫された。四面の繪は子供に描かせる。彩色して輪廓を燒き繪にする。上にニスを塗つた。四面を太絲で組み合せたり底を入

唱歌遊戲

第四週

唱歌　三回

れたりする事は大人がした。

第七週

鳩時計つゞき

植木鉢カバーつゞき

カーテン、テーブル掛け、クッション、何れも金巾又は天竺の布にクレヨンで繪を描かせた。普通のクレヨンは、色は鮮やかで強烈であるが、變色したり、クレヨンが剝落ちたりするし、ユウゼンクレヨンこ言ふのは、一度顯してアイロンをかけるこ、長い間變色はしないが、色合が地味で子供にはごうかこ思ふし、兩方の短所を補ふ良い染料が出てくれるこいゝこ思ふ。

兄弟雀（井上武士曲集）

最初の音が低くて少し聲が出しにくい。練習によつてよ